

SIMCO通信

令和6年11月17日
第164号 発行
S-3グループ 西 営業グループ 山口

秋が気が付かないうちに終わりを迎え、だんだんと肌寒い季節になってきました。先日、ここ2、3年でオタ活の一環として、半年に1回ほど行わせて頂いているライブを観戦しに行っていました。日も沈み海の近くで野外のライブでとても寒かったのですが、半袖でサイリウムを振っている同胞たちがおり、オタクの推しへの熱気は寒さに負けないんだなと感じました。私も負けてられないなと思いしっかり厚着をしてサイリウム振って来ました。勝てない物は勝てないので皆様も周りの人など気にせず、各々の防寒対策をして寒い冬を乗り切っていきましょう。

ふいご祭り



当社は毎年ふいご祭りを行っております。
今年には11月8日にふいご祭りを行いました。

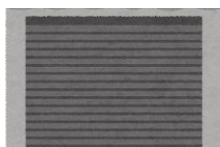
ふいごは主に刀鍛冶や金属小物を加工・製造する小規模のところで使用され、炉を使用して製鉄するところでは踏鞴(たたら)を使用します。どちらも空気を送り込む道具であったため、ふいごを踏鞴と呼ぶこともあります。そのため、ふいご祭りは、たたら祭りとも呼ばれています。

当社では毎年、お酒や乾物、野菜、果物をお供えて、仕事の繁盛や安全を祈願します。ふいご祭りとお供え物のミカンとの関係は、11月8日の卯の刻に天から踏鞴が降ってきてミカンの木にぶら下がっていたという伝承があるそうです。実際に踏鞴が天から降ってくる話は無理があるので、これは、ミカンは酸が含まれており鉄が錆び付く原因ともなるのでふいご祭りではあえて、ミカンを供えることにより【ふいごを使わない日＝鉄を使わず仕事を休む日】を意味しているのかもしれないそうです。

ふいご祭りの祭神は、金山彦命((かなやまひこのみこと)、金山姫神(かなやまびめのかみ)、稲荷神(いなりのかみ)の三神です。金山彦命と金山姫神は伊邪那美命(いざなみのみこと)が火之具土神(ひのかぐつちのかみ)を生み、陰部を焼かれて病み臥した際に生まれた神々のうち、嘔吐(たぐり)によって生まれた神様になります。金山は鉱山から来ており、二神は鉱山の神とされています。また、嘔吐によって生まれたことについては、溶解した鉱石が嘔吐物に似ていたからとされている説や、食物が人の腹中で成りかわったものがタグリであると捉え、鉱石が火の力によって金属になることの表現とする説があります。例年、火の神様に感謝すると聞いているのですが、ふいご祭りで祀られている神様には鉱山の神様もいるのでしっかり感謝を忘れないようにしたいと思います。二神は全国の金山神社に祀られています。毎年、会社でふいご祭りを行っているので千葉にも金山神社があるようなので、どこかのタイミングで御参りに行こうと思います。

シャッターの付け替え

製造第3グループの入り口と窒素置き場のシャッターが2か所付け替えが行われました。シャッターが新しくなったことにより開け閉めが大変、楽になりました。窒素置き場とプロパン置き場のカギも同じタイミングで統一化され、朝の設備点検の方も楽になり、夜勤の時は暗くてどちらの鍵が迷わなくてよかったので非常に助かっています。



表面担当 S-3グループ 西

日本3大〇〇

まずは、日本三大巨桜です。どれも樹齢は1000年を越えている桜の古木を指します。

1 三春滝桜(福島県)

樹齢1000年を超え福島県田村郡に生き続ける「三春滝桜」はベニシダレザクラの巨木。高さ約19mはビル6～7階分にあたり、東西12m、南北17mの広がりを見せる枝ぶりも圧巻。毎年4月中～下旬に、四方に広げた枝から薄紅の花が流れ落ちる滝のように咲き誇る姿から「滝桜」という名がついた。

2 根尾谷淡墨桜(岐阜県)

1500年前の古墳時代から存在を伝承されている「根尾谷淡墨桜」は、樹高16m枝ぶりは東西南北に約30mにもなるエドヒガンザクラの巨樹。特徴は、蕾は薄紅、満開は艶やかな白。散り際には淡い墨色という3段階の色の变化。一時は朽ち果てそうになったが淡墨桜を愛する人によって奇跡的に復活した。

3 山高神代桜(山梨県)

山梨県の実相寺境内にある「神代桜」は、樹齢1800年～2000年と推測される日本最古の桜。幹の上部は朽ちているが、大きくうねるように枝を上げ、約18mの根元近くから新たな枝を伸ばす姿は神々しいの一言に尽きる。

つづきましては、日本3大名瀑です。

1 那智の滝(和歌山県)

毎秒1t以上もの水量を誇る那智大滝は落差133m、滝壺の深さは10mもあり、一段の滝としては落差日本一の名瀑。落ち始めの岩盤が割れており、3本になって落下し始めることから別名「三本の滝」とも呼ばれている。傍らにそびえ立つ朱色の三重塔と見事に調和した景色は絶好のシャッタースポットだ。

2 華厳の滝(栃木県)

中禅寺湖の水が97mの岸壁を一気に落下する雄大さが魅力の華厳の滝。その迫力を満喫するのであればエレベーターで下った先の滝見展望台から、爆音とともににはじける水しぶきを間近で楽しむのがおすすめ。厳冬には「十二滝」と呼ばれる細い滝が凍りつき、全体が淡い青色に彩られる幻想的な姿を見せてくれる。

3 袋田の滝(茨城県)

落差120m、幅73mもある大きな岩壁に、幾筋もの滑らかな白糸のように流れる美しい姿に目を奪われる袋田の滝。



〇編集後記〇

最近、久しぶりに教習所に免許を取りに通いました。受講する免許は自動二輪小型ATを週いで二日間コースを受けるというものでした。緊張というのもありましたが不安なことが一つありました。それは卒検の際に決められたコースを覚えなきゃいけないということです。車の免許の際には教官が隣に乗って道案内をしてくれた記憶がありますが、二輪の場合はそれができません。老いた脳みそに鞭を打ってなんとか合格しましたが、みなさんも何歳になっても挑戦してはいかがでしょうか。